

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう 本館第1ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	令和元年12月5日	評価結果市町村受理日	令和2年3月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivovsvoCd=0172000184-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivovsvoCd=0172000184-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の尊厳を大切にしながら、居心地の良い生活が出来るよう日々支援している。また、個々の心身の状況に応じて出来る限り個別ケア出来るよう、日頃から職員間で話し合っている。日々の生活が退屈にならないよう、ドライブや外食などに出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ふきのとう」は、JR小樽築港駅から車で数分の小樽市の高台に立地している3階建て3ユニットのグループホームである。各ユニットには、雛飾りや季節の装飾、利用者の書初めや短冊などの作品が品よく飾られている。広々とした多目的ホールもあり、ピアノコンサートやカラオケ会、歌謡ショー、音楽療法など多くのボランティアの方々が継続して訪れて毎月楽しい行事を開催している。今年度は、事業所理念を基に全職員でユニット理念の見直しをしており、職員の理念への理解が更に深められている。地域交流の面では、避難訓練や事業所の夏祭りに近隣住民が参加したり、中学生や高校生の職業体験を受け入れて利用者と交流している。神社祭りには子供神輿も来訪している。管理者を中心に、全職員で各利用者の生活歴など入居前の状況を理解しながら、一人ひとりの思いや意向に沿った細やかな支援を行っている。市町村との連携の面では、市役所の生活支援課や地域包括支援センターの担当者や情報交換しながら課題を解決し、今後の運営やケアに活かせるように取り組んでいる。利用者と一緒に喫茶店や大型商業施設、水族館や手宮公園、朝里ダムなどに外出したり、白玉団子やケーキ作りなど利用者と一緒に楽しく活動しながら家庭的な生活を日々支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自宅での生活のように居心地よく自分らしく暮らせるよう、職員間でユニット独自の理念を掲げ、自分の知り得た情報を他職員と共有し、ケアに繋げている。	事業所理念を基に、ユニットごとに理念を作成している。今年度は、地域との関わりを意識した文言を入れ新たなユニット理念を作成している。職員は、居間の掲示などで日々内容を確認して理念の理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方々との交流が徐々に増えてきている。また、学生の社会体験の際に、ご利用者が潤滑に交流できるよう支援している。夏祭り等にも、地域の方々と一緒に参加して下さっている。	中学生が「雪明り」の雪像制作や職業体験で来訪している。神社祭りに子供神輿が訪れたり、ピアノ演奏や音楽療法、楽器演奏など多くのボランティアが継続して来訪し利用者で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	札幌で開かれた交流相談会に参加し、認知症について理解しやすいよう説明した職員もおり、少しずつ地域で開かれている認知症カフェ等にも参加したいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、行事の報告や意見交換を行っている。特に避難訓練を見学して頂いた時などはご利用者の状況も把握して頂き、ご理解を頂いている。	事業所の報告を中心に、避難訓練や感染症対策、参加者の関心があるような社会問題などを議題として取り上げて開催している。家族の参加や意見収集は難しくなっているため、現在は広報誌で開催日時と会議内容を伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小樽市介護保険課主催の研修等に参加し、指導を仰いだりしている。身寄りのない独居の方が入居された際に、近所の方から警察へ、倒れているのではと心配の通報があった。何事もなかったが、今後考えられる事例として、市役所に相談していこうと考えている。	利用開始時の対応など、その都度分からないことや課題があれば市役所の生活支援課などに相談している。法人施設の運営推進会議を各月で開催しているため、毎月地域包括支援センター職員と情報交換する機会がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に開催される権利擁護委員会で身体拘束に当たらないか等話し合い、ユニットでのミーティングで内容を周知し、ユニット間でも話し合いを持っている。	身体拘束ゼロへの手引きや身体拘束適正化委員会の指針を基に、虐待や不適切ケアチェックの勉強会を行い、禁止の対象となる具体的な行為について再確認している。ベッドから布団に変更したり、日中は玄関を施錠することなく、場所によりチャイムの音を変えるなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで、ご利用者への接し方や言葉遣い等を話し合ったり、言葉かけ等が気になる時は、その都度注意し合っている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に開催される権利擁護委員会でユニットの困難事例について話し合い、提案し合っている。成年後見制度を利用している方もおり、相談できる環境がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に説明する際には、不安・不明な点がないかを伺いながら、都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族の要望に対して、どうすれば実施できるかを職員間でその都度話し合い、出来る限り対応している。	家族の来訪時や電話、受診同行時に意見や要望を聞き取り支援経過記録に記入している。家族の些細な思いが把握出来るように、職員の気づきなどを個別に記録することも考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニットミーティングには事業所所長が毎回参加しており、現場職員の意見等聞く機会を設けている。年に2回ほど、会社の親睦会も開催している。	毎月のユニット会議のほか、ユニット代表の職員による権利擁護委員会を3か月ごとに開催している。会議に参加できない職員の意見を事前に聞き取り、会議に反映させることもある。管理者は、普段から職員と話をし意見や提案を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりがいに繋がるよう、ミーティングの際には達成したこと、解決したことも話し合っている。資格所得による手当や各役職手当等、個々のモチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、学んだことをユニットミーティング等で周知している。また、ふきのとう内でもユニット間で相互に訪問し、自分のユニット以外のケアについても学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市認知症高齢者グループホーム協議会に入会しており、協議会が主催する交流会等に参加し、他事業所と交流を図っている。当施設を含め、人員不足の事業所が多い為、相互訪問研修は少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くためにはコミュニケーションが大切で、入居が決まった段階で、要望や不安を伺いながら、居心地の良い環境で過ごして頂けるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安等を伺い、その時に必要な支援は何かを考え支援し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要としている事を見極め、ご本人・ご家族に話を伺いながら、職員間で話し合いをしながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の希望により、ドライブ等の外出支援や天気の良い日には、外に洗濯干しを手伝って頂くなど、「手伝ってもらい助かります」という感謝を述べ、支え合いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話連絡で、近況報告等をしなが、出来る時にはご家族にもご協力を頂き、ケアプランにも盛り込ませて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の友人や親せきが来訪された際には、昔話を聞いたり、楽しかった思い出話を花を咲かせている。外出した際に、以前住んでいた場所を巡ったりして懐かしんで頂いた。	近所に住んでいた方や職場関係の知人が訪ねて来ることもある。友人と外食に出かけた利用者もいる。職員と昔なじみの喫茶店に出かけたり、卒業した中学校を見に外出したこともある。家族と自宅に帰ったり、外食や買い物に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り個々の生活ペースに合わせて支援しているが、少しでも楽しく居心地よく過ごして頂くため、皆でビンゴゲームやトランプをして利用者同士の関わりを持って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談等の支援をしている。退院の見込みがない方の退居の際は、次の行先が見つかるまで、荷物等を一時的に預かるなど、ご家族の要望に出来る限り応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から希望を伺うことはあるが、なかなか言っていない方もいるため、今後は定期的にお話を伺い意向を確認していくよう努める。ご本人に伺っても返答が難しい方には、発語が多い日等に聞き出すよう努める。	会話や発語、行動や仕草などから思いや意向を把握して介護記録に記入している。アセスメントシートを6ヶ月ごとに作成しているが、趣味や嗜好などの情報は職員間で口頭で伝えることが多い。	アセスメントシートなどを活用して、趣味や嗜好などの情報を記録で確認できるような取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を通してその方の生活歴を把握し、それをバックグラウンドに記載し、全職員が把握できるよう努めている。可能な方はご家族から情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状の把握に努め、更に日々変化がある事を念頭に置き申し送りを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のミーティングにて話し合い、意見交換し介護計画を立てている。日々の変化に対しては、毎日の申し送りや業務の合間に話し合ったり、看護師から意見を頂いている。	3か月ごとに担当職員が援助内容に沿って評価を行い、全職員の意見を反映させて計画作成担当者が6か月ごとに介護計画を作成している。援助内容に家族の意向を詳細に入れている計画もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	できるだけ分かりやすく記録し、普段全くない言動や表情、声のトーンを注意深く観察するよう努めている。変化があった際などは、赤線で注目できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて、職員間で意見交換し、何が一番適切かを話し合い、対応している。ユニット職員以外にも、何か良い意見がないか聞くこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、町内会で行われる敬老会や、中学校の文化祭に招待を受け参加したり、夏祭りや避難訓練の際には、運営推進委員会の方や地域の方と交流している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病気の関係でかかりつけ医が変更になる事もあったが、その都度利用者様の意見を聞きながら対応している。気分によっては受診拒否がある方もおり、主治医に相談しながら対応している。	協力医療機関の往診のほか、かかりつけ医の往診を受けている方も多い。外部の医療機関を受診する時も家族と一緒に職員が同行し、主治医と情報交換しながら適切な医療支援につなげている。	

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りや、日々の利用者の状態を看護師の伝え、指示を受け対応している。ご利用者の持病についてミーティング時の勉強会で看護師より研修を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入退院の際には、ケアマネが窓口となり状況確認を行い、職員に状況報告を行っている。退院時には病院からの情報を元に対応や対処方法について話し合いを持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきたご利用者については、ご家族の意向を伺い、主治医と相談し看取りケアの説明を行い、看取りを希望されれば、看取りの同意書を頂いている。	利用開始時に、重度化や看取りの指針に沿って事業所として可能な対応について家族に説明し、意向を確認している。体調変化に応じて主治医や家族と方針を話し合い、家族の意向に沿って看取りも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル(日中・夜間)を確認し、避難訓練後に行われる救命講習で心肺蘇生の訓練を実施し、施設内にもAEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火元責任者を中心とし、避難訓練(日中・夜間・地震等)を実施している。訓練の際は、近隣住民や民生委員の方に来ていただき、訓練終了後に改善点や意見を頂き活かせるよう努めている。	運営推進会議時に、地域住民も参加して年2回昼夜の火災を想定した避難訓練を行っている。うち1回は、消防署の協力を得ている。地震時のケア別の対応について話し合った内容を記録に残し、分かりやすく整理したいと考えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の立場に立ち、尊厳・言葉遣い等、気になる事があれば注意し合い、権利擁護委員会を中心に身体拘束防止等について勉強会を行っている。	名前を「さん」づけで呼び、親しさの中にも丁寧な言葉で話しかけている。申し送り時には個人名を部屋番号で伝え、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望を伺い、したい事や欲しい物など、出来る限り叶うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースに合わせ、出来る限り支援できるよう努めている。1日1日をどのように過ごしたいか伺いながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合ったその人らしい服を選んでいただいたり、理美容で散髪・毛染めをしている。化粧品や衣類の購入など、その都度対応している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好きな食べ物を伺い、代理購入し提供している。食後に茶碗拭き等のお手伝いをお願いしたり、時々ユニット行事で手作りの白玉団子などを作る際に、一緒に作ったりしている。	法人で調理した料理を提供し、月1回の食事会では、すき焼き、オムレツ、お寿司などを楽しみ、屋外でユニット合同でのバーベキューもある。おやつのかきやお汁粉作りに利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録し、栄養や水分摂取量が十分摂れるよう、把握し対応している。低栄養気味の方には栄養補助の飲み物を提供している。拒否等がある方には、何度かに分けて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨き等の声掛けや介助が必要な方には介助している。一人ひとりの能力に合わせた対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレが設置されており、自立されトイレに行く方も多い。下着の汚れが目立つ方にパッドを使って頂いたり、おむつが必要な方には時間毎のパッド交換を行い、不快な思いを軽減して頂いている。座位が保てる方は、介助でトイレに座って頂いている。	基本的にはトイレでの排泄を支援し、状態に合わせて声かけや介助をし、2人介助の時もある。排泄のパターンに沿って誘導や介助を行い、羞恥心に配慮しながら出来る動作を促している。自力で出来る方はそれとなく見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り排便の有無を確認し、下剤等で便秘予防をしている。毎日ヨーグルトを提供し食べて頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人がゆっくりと入浴できるよう、対応している。全てではないが、出来る限り同性介助で対応できるように日程を調整するよう心掛けている。	午後の時間帯に週2回の入浴を支援し、拒む場合も声かけの工夫で誘い、スムーズに入っている。身体的な状態でシャワー浴もあるが、2人介助で可能な限り湯船で気持ちよく入れるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後など、ご自分の過ごしたい場所でゆっくりと休息して頂いている。夜間の見回りの際も、入眠を妨げないよう、静かに行うよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特別な薬を服用している方も多く、用法や効果などを把握できるよう努めている。誤薬事故防止のため、服薬は2名の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月ユニット行事を企画し、ドライブや外食、団子作りなどの楽しんで頂いている。暖かい日には、洗濯を外に一緒に干しに行くなど、出来る事をして張り合いを持って頂いている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場は寒くてなかなか外出できないため、暖かい時期に外出支援をしている。水族館や紅葉ドライブ、懐かしい喫茶店での外食など、楽しんで頂けるよう計画している。	普段は周囲や近くの公園を散歩したり、畑の様子を見て外気に触れている。家族との外出や通院の帰りなどに外食をすることもある。また外出行事の際にも外食を取り入れている。冬季も1階の多目的ホールでボランティアの催しを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを管理できる方には所持して頂いている。可能な方は、外出や通院後等の際、買い物した時にご自分で支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から手紙が届く方もおり、返事をかける時には書いて頂くよう支援している。道外にご家族がいる方は、こちらから電話をかけ話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁紙の装飾を行っている。利用者と共に作業をすることで、リビングで過ごす時間が居心地よい空間になるよう配慮している。	アパートを改造した3ユニットは、それぞれに間取りを工夫し家庭的な造りになっている。数段の階段や段差は自立面につながっている。居間に畳のスペースや食卓テーブルと別にソファを配置しゆったりと過ごせる。共用空間には利用者の作品、季節の装飾、ひな壇などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の落ち着いた場所で自由に過ごして頂いている。利用者同士の会話や声のトーンを汲み取り、場合によってはこちらから声をかけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物をお持ちいただいている。ご家族から送られる本が増えた際は本棚を設置したり、その時々に必要な物を話し合い、提供している。	洗面所とトイレのある居室や、押し入れ、備え付けの棚など、それぞれの造りを活かし鏡台や家具、小物類が置かれている。本棚にはスポーツ雑誌や本、壁に好みのポスターや家族の写真が飾ってあり、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方には、転倒に注意しながら居室内を一緒に掃除して頂いたり、ハサミを使う際にも見守り・声掛けを行っている。出来る事を探し提供している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう 本館第2ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	令和元年8月26日	評価結果市町村受理日	令和2年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの入居者様に寄り添いながら、要望等を聞き、心身の状況に合わせて、個別ケアが出来る様、日頃から職員間で話し合っている。又、日々の生活で退屈を感じない様、ドライブや、外食、希望の方には買い物等に出掛けたりと、楽しく過ごせる様、対応している。日々の生活が居心地よい空間で過ごせる様、支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JirvosvoCd=0172000184-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JirvosvoCd=0172000184-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本館全体の理念の他、ユニット毎のミーティングで理念を制作し、各ユニットのカンファレンスで理念に沿った支援が出来ているか話し合い、確認し、職員間で共有しながらサービス向上に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の敬老会等の行事や、近隣の学校の文化祭等に出来るだけ参加するようにしており、施設の避難訓練や夏祭りの時はチラシを配布し、地域と繋がりを持つようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度の運営推進会議や、年2回の避難訓練を通し、地域の方々に認知症について少しでも理解してもらおう様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、町内会、民生委員、家族、地域包括支援センターの方々に、出席して頂き、ふきのとうの取り組みや、イベントなどの紹介を伝え、意見を聞き、サービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、生活支援課との連絡を行い、分からない事等を相談したり、報告等も行い、必要な手続き等を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットに権利擁護委員をおき、定期的に委員会を開催している。委員会で行った勉強会やユニット別に出し合った事例をもとに更にユニットのミーティングで意見を出し合う等、研修を行っている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の業務の中で、虐待等、行ってはいけない行為等を常に話し合い、毎月のユニットミーティングでも権利擁護委員よりその月に気づいた事を説明し、不適切なケアを行わない様、話し合い、確認しながら防止に努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修として、勉強会等を行い、理解を深めている。実際に後見人が付いている方もおり、その状況により連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、各項目について、ひと通りの説明を行っている。分からない事等があれば、後日でも聞いて下さる様、お話しをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望について、個人的な物か施設全般に通じる物なのか判断し、それを参考にし、活かせるものであれば取り入れている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにて所長、ケアマネも参加をし、意見を聞く機会を設けている。又、職員個人的にも意見等があれば聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ職員とコミュニケーションをとれる様にし、相談援助等を行い、個々の働きぶりを見守り、ストレスをためないような環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング等では、ベテラン職員より今までの経験や参加した研修で得た事を伝え、職員間の理解を深めている。外部研修の案内により、参加する機会を作り、参加し職員は、ミーティング等で得た事を伝え、職員間で共有するようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽グループホーム連絡協議会主催の交流会に参加できる様にし、同業者と交流する機会を作っている。又、外部研修にも出来るだけ参加できる様にし、内部研修で発表し職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際には、本人から不安な事がないか、また要望等を聞き取り、前ケアマネからの情報や他施設、入院していた病院からの情報を頂き、出来るだけ利用者の意向に沿う様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談、契約の際には、本人、家族の不安や、希望を聞き施設で出来る事、出来ない事を伝え、少しでも希望に添い、不安も解消できるような関係づくりに努めている。入居後は、通信、電話連絡、来訪時等に伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時等に伺った事等から必要としている支援を見極める様、努め、入所して利用者の方が少しでも、早く馴染めるような雰囲気作りを行い、どのような支援が必要か、話し合いながら安心して過ごせる環境作りや、サービスを取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションをとり、出来る事、出来ない事を見極めて、無理なくお手伝い等をして頂いている。コミュニケーションをとりながら、楽しみを共有していけるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の生活を、電話や通信、来訪時等にお伝えし、ご家族と共に支えていける関係作りに努めている。又、必要時には御家族にも往診時に同席して頂いたり、通院時にも同行して頂き、共に利用者様を支えていける関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通院していた病院に可能な限り継続できるよう、入居後も、同病院に訪問診療をお願いしたり、継続して通院したりと支援している。また、入居前のご近所の方等の御来訪があった場合はまた来て下さるようお声を掛け、知人やお友達との関係が続くよう、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々の性格を考え、トラブルにならない様に職員が会話の調整役となり、日常生活を楽しく生活して頂けるよう、心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族からの相談や問い合わせがある時は出来るだけ、相談や支援等、出来る事は行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、ご本人の希望や意向を把握出来る様、努め、要望に応えられる様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や御家族や御本人から聞き取った生活歴等の他、御本人と会話する中でも今までの生活歴を出来るだけ聞き取り、ミーティングや申し送り等で職員全体で把握できる様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の精神状態、身体状況を把握し、入居者それぞれの持っている力に合わせたお手伝い等をして頂いたり、個人の強い希望があれば出来るだけ沿えるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を常に見ている職員、ケアマネと都度話し合い、ご家族、ご本人が何を望んでいるのか等、御家族や関係者と意見交換をしながら、必要なサービスをプランに取り入れる様、心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や健康状態、精神状態等やケアの実践結果を記録し、情報を共有し、ケアを行っている。ミーティング以外でも都度、話し合い、変化があれば計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物等の希望があれば買い物や軽食等の対応している。又、通院介助や外出、ドライブ等も計画し、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会での敬老会や、中学校の文化祭等に参加して頂き、楽しんで生活して頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や御家族の希望を伺い、かかりつけ医を受診し、体調の変化等によっては、御本人、御家族と話し合い、新たな医療機関で適切な医療を受けられる様、支援している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や、精神面で不安定な時等、都度、看護師に相談をし、受診や服薬の指示を受けたり話し合いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこちらの情報や薬の処方等の必要な事を伝え、入院中の様子は面会をしたり、入院先のケースワーカーや看護師より聞き取っている。退院時等に医師からの説明がある時は出来るだけ、聞き取れるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段々と終末期が近いという時は、事前に話す機会を設け説明を行い、ご本人・ご家族の意向を聞きながら、対応できること、できないことを伝え、最終的にはご家族が決めるよう伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1~2回はAEDの使い方を勉強し、救急時は救急車やご家族との連絡をすぐ取れるよう、緊急連絡先等必要な書類を分かる所に置き、必要な時に活用している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットに火元責任者を置き、会議を行っている。責任者を中心にマニュアルを職員一同理解し、年に2回の避難訓練や救急救命で訓練を通して、地域の方の協力を得ながら実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊厳を守り、プライバシーを尊重した声掛け、プライドを損ねない声掛けができる様、職員一同意識し、心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から入居者の方が話しやすい環境づくりをし、希望を言って頂いたり、自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせるようにし、出来るだけ希望に沿って生活できるように対応している。食事の時間や場所を希望される時も、状況を見極めながら、なるべく希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する美容室がある方がいらっしゃた場合はなるべく対応し、希望が特でない場合は訪問美容室も利用している。衣類等もご自分で選ぶ事が困難な方にこちらで選んでおしゃれができる様、支援している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みの食べ物を購入し提供をしたり、ユニット行事等で、出前をとり、好きな物を食べて頂けるようにしている。食器の片付けや食器拭き等、簡単なお手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、個々の食事量・水分量を記録している。水分をなかなか摂って頂けない方には、ジュースやプリン、ゼリー等その方の好きな物を取り入れて摂って頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、個々の状態に合わせた口腔ケアを行って頂いている。就寝時に義歯を外す事を拒む方に関しても義歯の洗浄を行って口腔ケアを済ませてから休んで頂いている。定期的に歯科医の訪問にて口腔ケアを行っている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	比較的、自立されている方が多いが、車椅子の方でもできるだけ日中は、お声掛けをし、トイレで排泄して頂ける様にしている。排泄の記録も残している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、個々の排便状況を看護師に報告・相談している。予防のため、体操をしたり、バナナやヨーグルト等提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本にしているが、拒否が強い方には無理強いをせず、違う日に変更したり、声掛けを工夫したりして対応している。入浴中は会話を楽しみ、楽しんで頂けるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に合わせて休んで頂けるように体操を行ったり、お手伝いをして頂く等、良眠につながるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の定期薬や頓服薬が処方された時は服薬管理表に記録し、個々の支援経過記録の中に薬情を入れ、見れる様にしている。定期薬の変更、頓服薬が処方された時は健康チェック表、服薬管理表、個人記録に記録しその後の症状の変化等を看護師とともに確認していく様、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方の意欲や残存機能を維持して頂けるよう、食器拭きや食器の片付け、タオルたたみ、テーブル拭等、お手伝いをして頂いている。又、中には御家族と外食したり、受診の帰りにお買い物をする等、気分転換の支援をしている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される入居者の方に関しては、通院帰り等に買い物したい物等に合わせ、お店に寄り買い物を同行している。又、御家族も協力して外食や買い物へ出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望がある方は御家族とお話しし、少額の金銭を持って頂いている。又、通院帰り等、買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人が希望された場合は御家族と電話でお話しをして頂いている。又、携帯電話を持っている方もおり、御家族了承のもと自由にお話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔に気持ちよく過ごして頂くよう心掛けている。リビングには季節に合わせてディスプレイをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを観ながら、気が合う方と一緒に談笑したり、簡単なお手伝いを職員と共に行いコミュニケーションを図っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に御本人や御家族にも説明をし、使い慣れた家具や、希望されれば仏壇を置いている方もいる。又、御家族の写真や飾り掛け、お声を掛けたり、塗り絵の作品等も飾る等、居心地良く過ごせる様、工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・階段、トイレ等に手すりを設置し、移動時には安全を考慮している。また、ご本人の出来ることを声掛けし、見守りしながら行っている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう 本館第3ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	令和元年8月26日	評価結果市町村受理日	令和2年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの入居者様に寄り添いながら、要望等を聞き、心身の状況に合わせて、個別ケアが出来る様、日頃から職員間で話し合っている。又、日々の生活で退屈を感じない様、ドライブや、外食、希望の方には買い物等に出掛けたりと、楽しく過ごせる様、対応している。日々の生活が居心地よい空間で過ごせる様、支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JirvosvoCd=0172000184-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JirvosvoCd=0172000184-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年度に入り、各ユニットの理念を新しく作り直し、1人1人が理念に沿ってケアを行える様、実践に繋がっている。新人職員や経験が浅い職員にもユニット理念の大切さをミーティング等で説明し、分からない場面は確認をし合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の敬老会等の行事や、中学校の文化祭等にも参加をし、年2回行っている避難訓練やふきのとう夏祭りにはご近所にチラシを配布する等、地域の方々との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふきのとう夏祭りや、避難訓練等の時は事前に、チラシを配布し、参加を呼びかけ、認知症の方への支援の在り方等を見てもらう機会を作る様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議ではイベントや、今行っているケアサービスの取り組み、実施状況について報告を行っている。民生委員、地域包括支援センター、ご家族との意見交換やアドバイスを頂き新たな取り組みに繋がっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの方に参加してもらっている。又、市の生活支援課や介護保険課と連絡を取り、分からない事等を、相談をさせて頂きながら、手続きを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットごとに権利擁護委員を設置し、月1回のユニットミーティングにて身体拘束についての確認をし合っている。又、権利擁護会議を全体で年4回定期的に行い、各ユニットで意見を出し合い、話し合った結果を、ユニットに繋げながら身体拘束を行わないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	各ユニット毎に権利擁護委員を設置し、定期的に全体で権利擁護会議を行っている。全体の会議で話し合った事をユニットミーティングで報告し、行った勉強会を更にユニット内で共有している。外部研修で得た情報はミーティングで発表し、又、日常のケアの中で気づいた点、不適切なケアをしていないか等、話し合い、お互いに注意をし合える環境にして防止に努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、「日常生活自立支援事業」と「成年後見制度」の違いについて、又その必要性について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について、御家族様、利用者様に各項目について十分な説明を行い、理解して頂いている。それに対し、不安や疑問があった場合は、その内容について時間を掛けて話し合い同意して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に相談窓口を設けており、ご家族様、利用者様が意見等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、相談、苦情があった場合は社内会議、運営推進会議にて報告を行い、管理者、介護支援専門員を中心にユニット内で話し合い、改善するように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニットミーティングにて施設代表者、管理者、介護支援専門員が参加し、介護職員の意見や提案を聞く場を設けている。又、必要があれば個別に意見を聞く機会も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与について資格手当、各種職務手当等を設け、各職員が、向上心を持てるような環境を整え、サービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を配布し、職員は希望の研修に参加し、ケアのレベルアップにつなげている。又、研修に参加した職員より月1回のユニットミーティングで発表し、参加できなかった職員にも内容を共有できる様、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年行っているグループホーム連絡協議会主催の交流会に参加する機会を作り、他のグループホームの職員の方達と交流し、情報交換を行う事で、サービスの質を向上出来る様、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の見学時や面談時より、コミュニケーションをとり、要望や困っている事等を出来るだけ引き出せる様にし、安心して生活して頂ける様、努めている。又、職員は入居時から利用者の方が心を開き要望などを伝えやすい関係づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時等にご家族の困っている事や希望、不安等を聞き、前ケアマネや、退院時に病院から直接入居となる時は病院からの情報も頂き、その内容を職員と共有し、信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族や利用者の方とお話しする中で、利用者の方が何を必要としているのかを見極め、又、入居前の情報等を参考にしながら、アセスメント、カンファレンスを行い理解して頂いた上で計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方が出来る事をなるべく継続出来る様に対応してる。御本人の体調等を見ながら職員と一緒にコミュニケーションを取りながらお手伝いをして頂き、信頼関係を築ける様務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が来訪時には、現在の状況を説明し、来訪が難しいご家族にはふきのとう通信や電話にて普段の様子等をお知らせしている。必要な状況の時には、通院を同行して頂いたり、往診医の説明の場に同席させて頂く等、御家族と共に利用者様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からかかっていた往診医や通院していた病院に可能な限り継続出来る様支援している。又、来訪して下さる顔なじみの方、知人の方との関係も継続していける様、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々等の性格等を考慮し、一人一人が孤立しない様、職員が会話の調整役となり楽しんで過ごして頂ける様に努めている。又、お話できない方には職員が間に入り、コミュニケーションの手伝いを行っている。皆様でコミュニケーションを取りやすい場としてもユニット行事等で楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご家族様とお配する機会はあまりないが、何かあれば相談していただけるように挨拶をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で利用者様の希望を把握できるように意識し、希望等を聞いた職員はケアマネを含め、全職員が把握出来る様に伝え、共有し、要望を伺い、できるだけ応えられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族や御本人、紹介して下さった病院や居宅介護支援事業所からの情報を伺い、その生活歴をもとに、普段のコミュニケーションに取り入れられたり、ミーティングで共有し反映させその人らしい生活が送れる様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング時や普段の観察の中で持っている力を把握し合い、布巾縫い等が出来そうな方には縫って頂いたり、食器拭きやおしぼりたたみ等、持っている力に合わせてお手伝いをして頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時にはアセスメントを行い、月に1度ユニットミーティングにてモニタリングを行い、職員全体で気づき等、意見を出し合い、介護計画をたてている。又、変化がみられた場合は職員全体で確認し合いケアプランの変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には1日の様子や健康状態等を記録し、職員間で気づきや変化等、情報を共有し、ケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望により、買い物同行をしたり、外出をして買い物帰りにお好きな物を職員と一緒に食べて頂く等の対応胃をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や近隣の中学校の文化祭に参加し、楽しく過ごしていただけるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や御家族の希望を伺いながら入居前からかかっている往診医や病院を継続したり、新たな医療機関で適切な医療ができるように支援している。入居時には御家族の希望等伺いながら医療機関と相談をし、今後のかかりつけ医について検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送り等で入居者様の身体状況の変化等について看護師、介護支援専門員に報告し、適切な指示を仰ぎ支援している。職員1人1人が入居者の身体的な変化に気づけるようにし、小さい事でも職位間で申し送り、看護婦に報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には病院に情報を提供し、入院中には直接面会したり、御家族や病院関係者からの情報を共有できる様務めている。又、御家族同意のもと、同席させて頂き、医師からの話を聞く事等も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には利用者の方が重度化した場合における対応を説明している。又、終末期にさしかかった時には医師と御家族との話し合いに御家族の了解のもと職員、ケアマネも同席をさせて頂き、しっかり話し合いを行い、看護師の意見等も取り入れながらユニット全体でプランをたて支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で定期的にAED、応急処置の訓練を行い、初期対応が出来るように訓練を受けている。新人職員が入った場合は必ず参加して頂ける様対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、色々な災害想定を作り、全体避難訓練を行っている。又、消防、近所の方々立ち会いにて日中、夜間想定として訓練を見学して頂きそれについてアドバイスを頂いている。救急救命についても訓練を行いたいと言う時、対応できる様、学んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のお呼びする時は、その方の生活歴等も考え、その方に合わせ、名前で呼ばせて頂いたり、苗字で呼ばせて頂いている。馴れ合いが出て来た場合は、その時に職員同士指摘し合い気をつけて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が希望を言えたり、自己決定が出来る様、日々声掛けやコミュニケーションをとり希望を言いやすい環境づくりを心がけ、希望に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ、その日の状況に合わせて支援を行っている。各利用者様の希望に沿えるようにし、1日1日をどのように過ごして頂くかをミーティング等で職員間で話し合いを行い支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族や御本人に行きつけの美容室は、なかったか等を確認し、特にない場合は説明をさせて頂き、定期的に訪問美容室に来て頂き、ヘアカットを行っている。季節に合った服装を支援し、希望の方は買い物同行し、洋服等を購入している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット行事で出前をとり、食事会を行ったり、おやつ時には利用者様の好みを聞き、ホットケーキやたこ焼き等のお菓子を作ったりし、提供している。希望される方には外出にてお好きなケーキなどを食べて頂いている。又、職員とコミュニケーションを取りながら食器拭きやおしぼりたたみ等のお手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量を個人記録と健康チェック表に記録し、身体状況に合わせ、お粥や刻み食又は、水分にトロミをつける等の食事形態で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師より月1回口腔機能維持管理についての助言、指導を頂き、毎日の口腔ケアに取り入れ、個々の状態に合わせて、口腔ケアを行っている。義歯は必ず、義歯洗浄液で洗浄、消毒をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状況に合わせ、トイレの排泄が可能な限りなるべく日中はオムツ対応ではなく、トイレで排泄して頂ける様に支援している。夜間帯の歩行状態が悪くなってきた方にはポータブルトイレを使用させて頂いている。時間の間隔を決め、声掛け等行い、トイレで排泄して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者様の排便のリズム、便の状態等を観察しながら看護師と相談し、排便調整を行っている。バナナやヨーグルト等もおやつに取り入れ水分も多めに摂って頂ける様に声掛けを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の身体状況やタイミングをうかがい、入浴中は積極的にコミュニケーションをとり、入浴を支援している。入浴の拒否が強い場合は職員を交代してみる事や、声替を工夫して入って頂ける様、努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に合わせて、ベッドで休む時間が必要な身体状況であれば休む時間を作ったり、リハビリ体操等身体を動かして、快眠に繋がる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各医療機関より処方されている薬情により目的や副作用を理解している。定期薬や頓服薬等が変わった場合は健康チェック表と個人記録に、この日から開始した事をわかるように記入し、症状の変化等を看護師と確認し、医療機関に相談等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持っている力に合わせて、食器拭き、洗濯畳、おしぼりたたみや布巾縫い等のお手伝いをして頂き、毎日の張り合いを感じて頂ける様、対応している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館第3ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の方の希望を聞きながら、ご自分でほしい物がある場合は、予定をたて、出掛ける機会を作っている。又、外出行事の予定をたて、市内の施設等に出掛ける機会も作っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近入居された方は少額のお金を所持されているが、その他の方々は今現在、希望もなく、所持されている方はいないが、今後も希望される方がいれば、個々に応じた支援を行っていく。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	最近入居された方は電話の希望が多い方なので、希望があれば、電話をして話して頂いている。その他の方々は、個々の能力の低下により難しい状況です。心身の状況を見て支援したいと考えています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはその季節にあった飾り付けをし、季節感を味わって頂ける様にしている。又、毎日掃除を行い、清潔に気持ち良く過ごせる空間を作っている。湿度の管理等にも気をつけている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがあり、自由に過ごせる環境になっており利用者様同士が会話等を楽しまれている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方の使い慣れた物を入居時や入居後に持って来て頂き、家族写真や思い出の物を飾り、ご自分の空間を作っている方もいる。ご自身で難しい方は、お声を掛けながら、その人に合った空間を作る様に心掛けている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレには手摺を設置し、歩行が可能な限り、手摺を使用しながら介助にて歩行をして頂く等、残存機能を生かし、できることは行って頂いている。基本見守りで、食器下げやおしぼり、タオルをたたんで頂いている。			



目標達成計画

事業所名 グループホーム ふきのとう

作成日: 令和 2年 2月 25日

市町村受理日: 令和 2年 3月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントシートなどを活用して、趣味や嗜好などの情報を記録で確認できるような取り組みを期待したい。	一人ひとりの趣味や嗜好の情報を共有できるように記録に残す。	現在活用しているアセスメントシートを活用し、趣味などを記載する。センター方式を活用しているユニットでは、年に1度更新できるようにする。	R2年 10月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。